

四天王寺伽藍

大阪市天王寺区所在

四天王寺発行のリーフレットの「四天王寺縁起」によると四天王寺は聖徳太子が593年に建立した日本仏法最初の官寺であるという/
四天王寺は戦災で伽藍のほとんどが焼失し、昭和30年代に鉄筋コンクリート造で再建されている/設計は藤島亥二郎/正面は南大門



南大門を潜ると仁王門がある/屋根は鍔葺である/背後には五重塔が見える



アップで見る



仁王門/エンタシスをもつ柱



丸垂木の扇垂木



雲形斗拱と人字型割束/丸桁も丸型



廻廊部分を見る



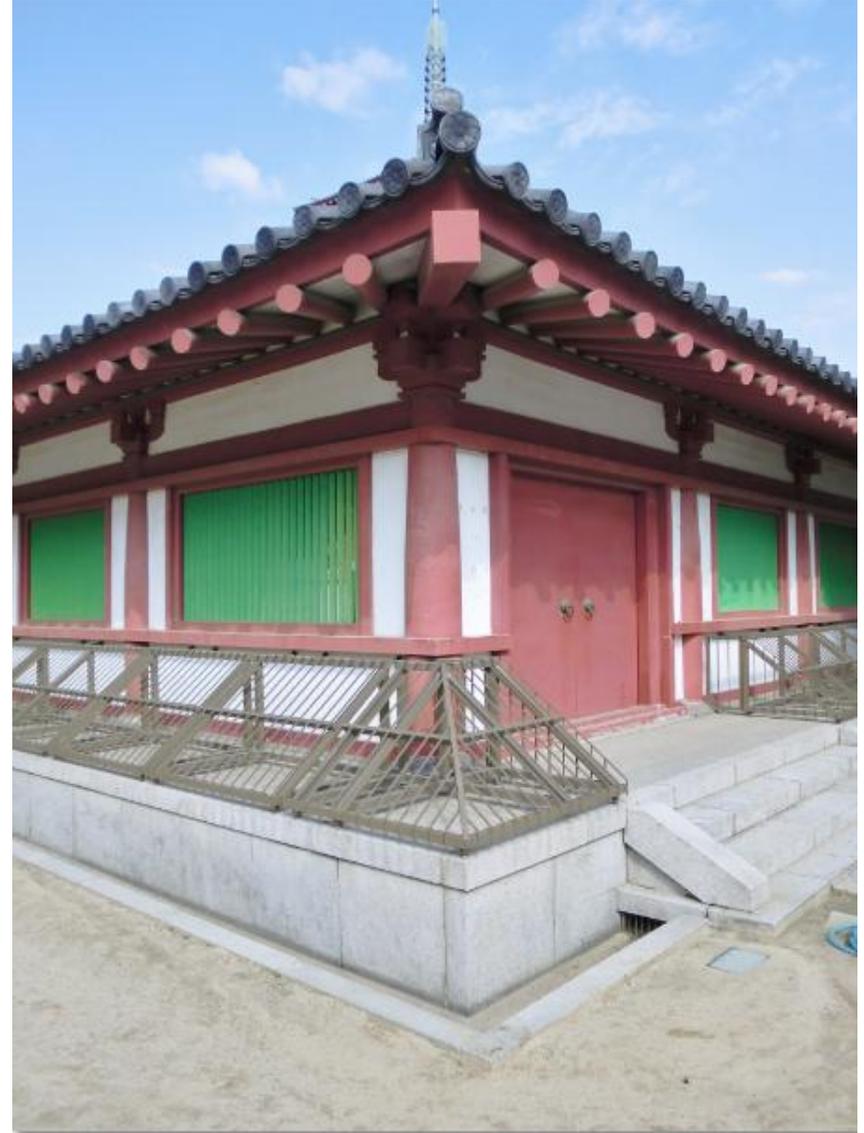
廻廊のファサード



五重塔が見える



廻廊隅部



同じく丸垂木の扇垂木



仁王門から見た五重塔



廻廊内の右手を見る



廻廊内の左手を見る



さて、廻廊内に入って五重塔基壇を見る/手前は青銅製の燈籠



五重塔も仁王門と同じ様式である



再建されたのは昭和34年らしい



廻廊/反時計回りに廻ってみる





仁王門(中門)、五重塔、金堂、講堂の順に南北に一直線に並ぶ「四天王寺式」と呼ばれる日本最古の伽藍配置となっている/法隆寺西院伽藍(7世紀の焼失後、8世紀初め頃の再建とするのが定説)の前身である「若草伽藍」の伽藍配置もまた四天王寺式であった



金堂/屋根は仁王門と同じく鍔葺/再建されたのは昭和35年らしい



アップで見る/四天王寺発行のリーフレットの「四天王寺縁起」によると再建された諸堂は飛鳥時代創建当初の姿を伝えているとのこと/ウィキペディアによると日本の飛鳥時代、高句麗、六朝などの建築様式を加味して創建当時(6世紀末)の様式に近付けようとしたものという/軒反りは緩やかで綺麗な曲線である/鍔葺屋根は直線的できつい勾配となっている



東側面から見た金堂



これは法隆寺玉虫厨子の鍔葺屋根部分の拡大写真(大岡資料より)/丸垂木で扇垂木、雲形斗拱である



参考 1

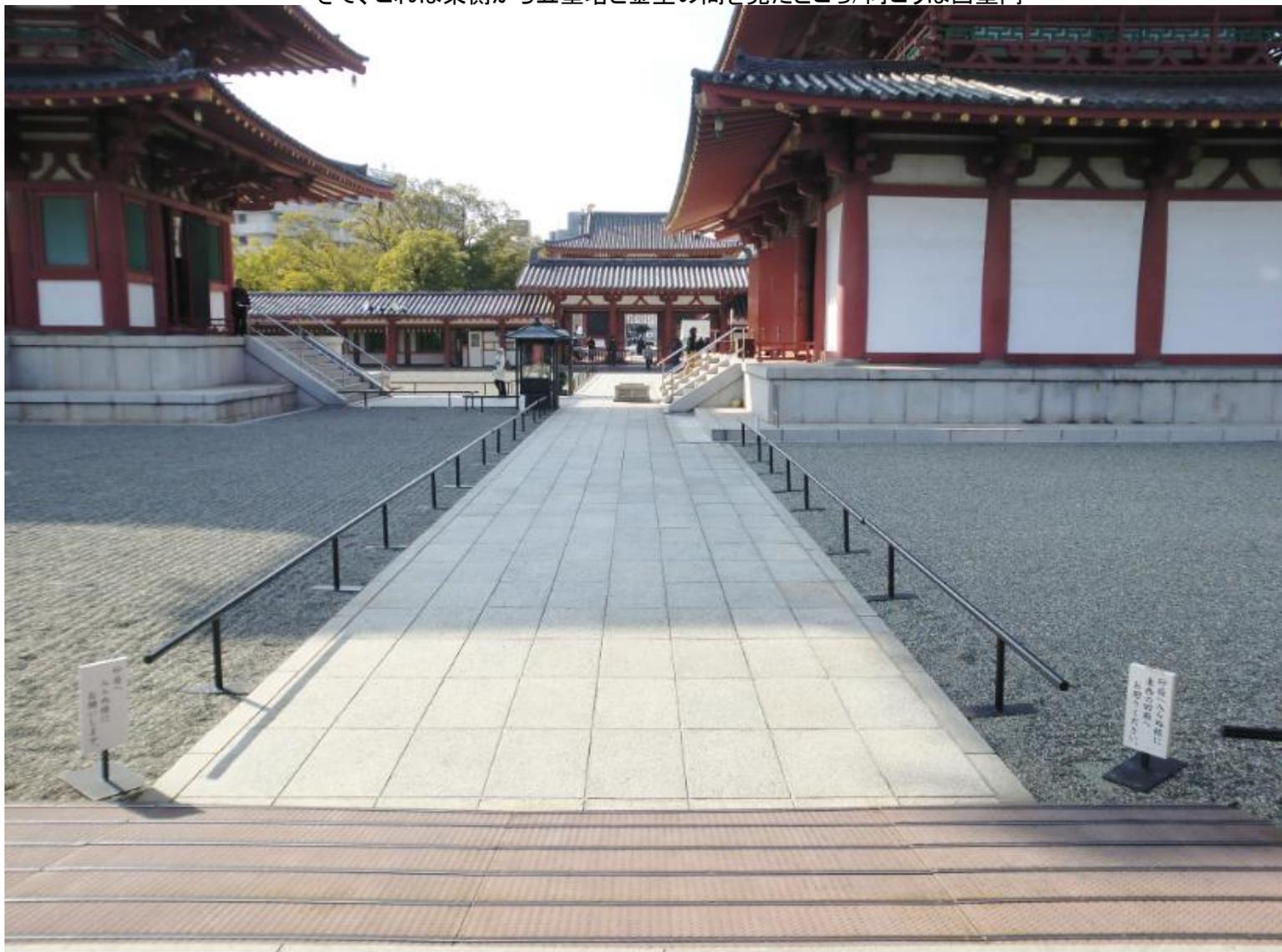
大岡實設計の聖光寺本堂



大岡實設計の聖光寺本堂



さて、これは東側から五重塔と金堂の間を見たところ/向こうは西重門



講堂/屋根はやはり鍔葺/再建されたのは昭和38年らしい



北東側から見たところ



背後から見た金堂



左手を見る



右手を見る



北西側から見たところ



アップで見る



更にアップで見る



金堂も同じ様式である





金堂西面



アップで見る









講堂を見る



五重塔



南西側から見たところ



アップで見る



鍔葺屋根を良く見よう











参考 4

大岡實設計の聖光寺本堂





大岡實設計の聖光寺本堂



五重塔から見た金堂



上層部分



アップで見る



下層部分



アップで見る



金堂から見た五重塔





さて、正面の鍩葺屋根の建物は廻廊の外にある北鐘堂



廻廊の外で左手から講堂、金堂、五重塔を見たところ



講堂の西側面



アップで見る



講堂、金堂、五重塔の屋根と続く



伽藍を西側から見たところ/正面は西重門



東側から見た鍔葺屋根の北鐘堂



アップで見る



南西側から見た北鐘堂



これは北鐘堂の東側にある太鼓楼/南西側から見たところ



さて、正面は戦災を免れた六時堂/手前には石舞台がある/共に江戸時代初期建立の重要文化財



「日本三舞台」の一つとされる(他2つは、住吉大社の石舞台、厳島神社の平舞台)



この池は「亀の池」



妻側から見た六時堂



アップで見る





これは西側にある極楽門



北側側面



さて、ここは西側からのアプローチで正面に鳥居と上記の極楽門が見える



近づいて見る



西門石鳥居/鎌倉時代の造立/重要文化財



見真堂



阿弥陀堂



これは四天王寺学園入口



その左手に立っていた四天王についての説明板



ポストの向こうに立派な宝篋印塔が見える/左手には説明板も立っている



この宝篋印塔は西国巡礼三十三度行者満願供養塔/江戸時代末期造立/大阪市指定文化財



西国巡礼三十三度行者満願供養塔

〔指定の種別〕有形民俗文化財

〔指定年月日〕平成一八年一月二〇日

江戸時代には、人々が自由に移動することは禁止されてきました。しかし、行者（ぎょうじゃ）と呼ばれる人たちは、大きなお寺が支配する会所（かいしよ）という組織に入ること、ある程度自由に旅行することができました。人々は行者に頼んで全国のお寺などの霊場（れいじょう）をまわってもらい、いろいろな願いをたくして、自分たちの代わりに祈ってもらいました。

西国巡礼（さいごくじゅんれい）とは、近畿の観音菩薩（かんのんぼさつ）ゆかりの霊場を巡礼することで、巡礼する行者を三十三度行者（さんじゅうさんどぎょうじゃ）などと呼びました。巡礼が無事終わった時に、行者に巡礼を頼んだ人が記念の石塔を建てることもよくありました。

この石塔はそのひとつで、極楽への扉といわれる四天王寺の石鳥居の近くに建てられています。住吉大社の近くにある西の坊（にしのはう）というお寺が組織した住吉組（すみよしぐみ）の真道という行者の巡礼を記念した、文久二年（一八六二）のもので、市内では西国巡礼の供養塔はめずらしく、大きさも特に大きく立派なものです。



これは聖徳太子影向引導五輪宝塔





この石塔は「聖徳太子影向引道五輪宝塔」といいます。

隣接する玉垣内鎮座の靈石「引道石」の上に、その昔、太子が

影向されたの古記録にもとづき建立されたもので、宝塔中央に

聖徳太子尊像をご安置しています。

おまいり方法は、傍らの鐘を軽く三打撞き、正面の聖徳太子の

お前で、「南無聖徳太子救世菩薩」(なむしやうたいてんたいせぼんざん)

「おんばらたはんどめいぶつん」とおとなえ下さい。

心からおまいり下さいれば、聖徳太子の引導に預かり、安養の世界にお導き

下さいます。納骨の方は、ご遺骨をご先祖供養の方は、細木

もしくは過去帳を、塔内に一度安置しておまいりいただけます。

総本山 四天王寺

右手の玉垣の中に引導石が入っている



五輪宝塔の手前が四天王寺四石の一つ「引導石」



これは西門石鳥居の右手に立っていた宝篋印塔



さて、これは伽藍の東側にある太子殿(右手の入母屋造)と奥殿(左手の六角堂)



その左手にある宝物館(白い建物)



参考ホームページ

<http://www.shitennoji.or.jp/map.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9B%E5%A4%A9%E7%8E%8B%E5%AF%BA>

http://www.y-morimoto.com/s_saigoku/s_saigoku01.html

<http://www9.plala.or.jp/kinomuku/shitennoji.html>

<http://plaza.rakuten.co.jp/kenji07/diary/200909080000/>

http://www.bell.jp/pancho/travel/taisi-siseki/temple/sitenno_ji.htm

<http://masayama.iusthpbs.jp/sitennouji.html>

